

平成19年第11回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成19年11月13日(火)

午後1時30分開会

開催日時	平成19年11月13日	開会 1時30分 閉会 1時53分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	委員 長 伊東 浄堯 委員 長職務代理者 亙理千鶴子 委 員 菊地 邦夫	委 員 伊藤 恒子 教 育 長 向井 一身	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 本多 龍雄 生涯学習部長 石川 明 庶務課長 北村 高 学務課長 福田 協司 指導室長 富士道正尋 指導主事 浜田 真二	生涯学習課長 伊藤 信之 兼生涯学習係長事務取扱 スポーツ振興課長 林 文男 公民館長 中嶋 登 庶務課長補佐 淀川 章 兼庶務係長	
調 製	主 任 山内 和子		
傍聴者人数	1名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	報 告 事 項	1 平成19年度第2回小金井市奨学資金運営委員会の結果について 2 平成20年度新入学児童・生徒について 3 結核対策委員会の結果について 4 全国学力調査の結果について 5 第60回優良公民館表彰について 6 その他 7 今後の日程について



報告事項 2、平成 20 年度新入学児童・生徒についてお願いします。

福田学務課長 平成 20 年度新入学児童・生徒の推計についてである。

20 年度の学級編制に向け、この推計をした。これは住民基本台帳から対象者を抽出し、過去 4 年度間の新 1 年生の市立小・中学校への入学率をもとにし、20 年度で予想される新入学児童・生徒数及び学級数を推計したものである。推計した平均入学率は、小学校が 91.9%、中学校は 74.1% である。その差が、私立学校は小学校 8.1%、中学校 25.9% と、私立等々にはその率の予定になっている。

小学校の新 1 年生は 736 人で、21 学級となる。中学校については 687 人で、20 学級になる予定である。これは今年度の 5 月 1 日現在の在籍数と比較すると、小学校で 138 人減る。学級数は 27 から 21 と、6 学級減る。中学校では 97 人減り、20 学級で、学級はそのまま変わらない。小学校だと一小と緑小で人数増があるが、その他の小学校、中学校では、それぞれ減少する見込みになっている。

この数字については、あくまでも平成 16 年、17 年、18 年、19 年、この 4 年度間の在籍者、入学率を掛け合わせて出したものである。であるから、現実、20 年になると、このままの数ということではない。一応今、10 月 1 日現在でこのような形であると。ということは、例えば、現在の学齢簿の登録が 10 月 1 日現在で 799 人になっているが、それが昨年の場合だと 909 人とか、その前の年だと 959 人とか、やはり差が出てきている。これについては、東京都で 19 年度の教育人口と推計報告書をつくっているが、その中でも出生数の波というか、例えば 47 年以降、減少を続けてきた出生率は平成 6 年度で一旦増加した。しかし、また平成 7 年で減少している。また 8 年で動いて、以降、横ばいだが、14 年でまたピーク、減少、また 18 年で増加、19 年以降は減少傾向とか、そのような形で出生率にかなり変動があるので、このような数値になっている次第である。

この数字の中で、現実、保護者からの転入、転学等々の希望等をきちんととり、20 年 4 月 7 日の入学式時点で児童・生徒数及び学級数が決まるというような状況のものである。これから児童・生徒数及び学級数の把握というのが日々、神経を使ってやっていくよう

な状況になる。つまり、40人学級であるが、41人になると、20人と21人の学級に二分され、先生方の手配も必要となるので、これからが学級編制の把握として大事な時期になってくる次第である。

以上が報告である。

伊東委員長 何かあるか。

二小と一中という、ちょうど60周年を迎えた2校が大幅に減るのは、エリア的にも何か思い当たることはあるか。

福田学務課長 これは毎年調べているが、やはり出生率自体が確かに低い。3年前、6年前、そのときの出生率に波があり、少ないものであるから、あとは転入であるとか社会的な増というのをかみ合わせるものであるから、推計としては10月1日時点と4月7日の押さえる時点ではかなり違ってくる。

伊東委員長 これに関連してであるが、例えば実際に住んでいるところが小金井市外でありながら、市内に通ってきているお子さんもいるというふうに、実際に確かめたわけではないが、聞いている。そういうようなデータのようなものはあるか。

福田学務課長 私どもではそれは持ち得ていない。いわゆる区域外就学等々、きちんと届け出をしたものについては人数の把握はあるが、いわゆる住民登録をきちんとされているものだと、こちらではカウントしているの、そこら辺の実情というのはわからない。

伊東委員長 わかった。  
報告事項3、結核対策委員会の結果について。

福田学務課長 報告事項3、結核対策委員会の結果である。  
お手元の報告事項3資料、平成15年・16年・17年・18年・19年度精密検査受検理由・精密検査結果比較一覧をごらんいただきたいと思う。これも平成15年からこのような形、府中と小金井2市で結核対策委員会を合同設置してやっている状況のものである。

この資料については小・中学校一括での報告表になっているが、その中の小学校を見ると、精密検査の対象は8人となっている。しかし、そのうち1人が、私どもがお願いした医療機関ではなくて、別の医療機関で受検をしているので、今回、把握ができずに、1人を未検診にしている。その結果で、私どもが押さえた残り7人が精密検査を受検して、全員に異常がない。また、中学校については、同様に対象者が2名、そのうち1人は海外に帰国してしまったので、受診ができていない。その結果で、中学生は1人が精密検査を受検し、異常なしということで、結局、8人の対象者が受検し、全員8人ともが異常がないということである。

その下段のほうに、各学校で収集していただいている結核対策のための問診票の回収率、対象者率、受検率、未受検率というような形でそのパーセントを落としている。回収については、各学校の養護の先生のご努力により、ほぼ100%近い数を集めている。精密検査は15年と19年を比較すると、対象者が当初46人いたが、19年では10人に減っている。また、精密検査の受診率については80%というようなことである。これについては、以前は小学校、中学校それぞれ学年全員がBCGなり注射なりをして一定の学年別の検査をしていたが、平成15年から本人からの問診票を受け、その問診票の内容を審査し、対策委員会の中でレントゲンなりの精密検査を指定していくというような方法に変わっている。徐々にであるが、やはり対象者が少なくなっている現状にある。

以上である。

伊東委員長

よろしいか。

報告事項4、全国学力調査の結果について願います。

浜田指導主事

本年4月24日に実施した全国学力・学習状況調査の結果が発表されたので、本市における教科にかかわる調査結果の概要を資料のとおりまとめた。

本市の結果については、全国的な状況との関係においても良好であると言える。小学校国語・算数、中学校国語・数学について、相当数の児童・生徒が基礎的・基本的な知識・技能を身につけていると考えられる。一方、知識・技能を活用する力に若干課題があった。例えば小学校国語では、資料から必要な事柄を取り出し、与えられ

た条件に即して書きかえる問題など、中学校数学では、数量の関係を理想化したり、実際のデータを単純化したりして数学的に表現する問題などに課題があった。課題のあった問題についてはさらに詳細な分析を加え、校長会や教務主任研修会等で授業改善について指導してまいる。また、学校訪問の際にはこれらの課題を踏まえた指導・助言を行ってまいる。

学習状況については、学習に対する関心・意欲、基本的な生活習慣等は全国的な状況との関係においても極めて良好であると言える。例えば、本市は授業の内容はよくわかる、勉強が好きであると答えている児童・生徒が多いことがわかった。いいところはさらに伸ばす指導をしてまいる。そして、今後、さらに本調査の分析を重ね、本市の教育行政に生かしてまいる。

以上である。

伊東委員長

よろしいか。

これは各学校にも行っているか。

浜田指導主事

各学校においては、個人のデータも一緒に送ってある。

伊東委員長

小金井市全体のデータもあるのか。

浜田指導主事

指導室のみにある。

伊東委員長

そうか。

亘理委員長

職務代理者

学校だよりなどでこの結果をおっしゃっていて、その報告を申し渡しにして、よくまとめており、分析もされていて、今後の授業改善に役立てていきたいということはとてもいいなと思っているが、例えば私たちがちょっとでも中身を知りたいなとか、どうだったのかなという、何か知りたいときは具体的に何ができるのか、何をしたらいいのか。私たちとしては、私たちというのは、市民一般はその内容をうかがい知ることにはできないということか。

富士道

指導室長

今のお話で、公表についてということのご質問かと思うが、基本的には、前にもお話をしているが、データについては過度な序列化

につながるという問題もあるので、特に正答率については公表しないつもりであるが、今、指導主事からも話があったとおり、詳細の分析については今後、ホームページ等の掲載等を含めて、しっかり開示をしてみたいと考えている。

亘理委員長  
職務代理者            ありがとう。

伊東委員長            報告事項 5、第 60 回優良公民館表彰について

中嶋公民館長        第 60 回優良公民館として小金井市公民館が被表彰館に決定したことは、第 9 回教育委員会でご報告をした。過日 10 月 22 日月曜日に、霞ヶ関ビル内の東海大学校友会館で文部科学大臣表彰を受賞したので、ここにご報告をする。

全国約 1 万 7,000 館中、55 館の公民館とともに受賞した。これまでに小金井市公民館は第 31 回文部大臣表彰を昭和 53 年に受賞し、再度の受賞となる。

受賞の理由は、小金井市公民館が昭和 28 年開館以来、市民が公民館事業に参画する企画実行委員制度を導入し、各種講座の企画を初め、公民館が行う専門的事項の調査・研究など、公民館職員と市民が一体となった公民館事業を実施していること、市民ボランティアの協力を得て、IT サポートセンターパソコン何でも相談を実施していること、昭和 50 年から続いている障害者青年学級みんなの会などが特色ある活動として評価されたものである。

あちらのほうに、表彰状並びに社団法人全国公民館連合会の記念品である盾、宮内庁からの写真集、先日届いた記念写真を置いてある。

なお、当日は午前 10 時受付、11 時から表彰状授与、公民館長が表彰状を受け取り、記念撮影、公民館運営審議会大橋元明委員長に同行していただき、式典を見届けていただいた。昼食後、ともにバスにて皇居に移動し、受賞者は長和殿波の間にて、午後 2 時、天皇・皇后両陛下に拝謁、お言葉をいただいた。陛下は社会教育に深いご理解を示され、今回の受賞が特色ある公民館活動をされていることについて、ねぎらいのお言葉をいただき、その後、長和殿前庭にて同行の大橋委員長とともに記念撮影、庭内を大橋委員長などと

1時間15分拝観した。宮内庁から皇室の写真集などを賜り、午後3時40分、東京駅にて解散した。

このたびの受賞は公民館を利用する多くの市民のご理解とご支援のたまものであり、今後とも利用者に親しまれる公民館であり続けるよう職員一同努めていきたいと思う。

なお、表彰については、市報12月1日号、他に全国機関誌の『月刊公民館』からの取材、『月刊社会教育』への原稿入稿など、小金井市公民館を知っていただくように努めたいと思う。

以上である。ありがとう。

伊東委員長 だれか。

伊藤委員 大変おめでとう。ご苦労さまであった。

中嶋公民館長 恐縮である。

伊東委員長 報告事項6、その他。  
特にないか。  
それでは、今後の日程についてお願いします。

淀川庶務 教育委員会の今後の日程である。

課長補佐 1月27日火曜日午後1時30分から、平成19年第12回教育委員会を801会議室で開会予定である。続いて、1月8日火曜日午後1時30分から、平成20年第1回教育委員会を801会議室で開会予定である。1月21日月曜日午前9時から、平成20年度一般会計予算教育委員会意見聴取が庁議室で行われる予定である。全委員の出席をお願いします。1月22日火曜日午後2時から、平成19年度東京都市町村教育委員会連合会第3回理事会・第2回理事研修会が東京自治会館で開催予定である。委員長のご出席をお願いします。2月1日金曜日午後2時から、東京都市町村教育委員会連合会研修会が東京自治会館で開催予定である。全委員のご出席をお願いします。

教育委員会の今後の日程については以上である。

伊東委員長 報告事項が終わった。

本日の審議はすべて終了した。

これをもって平成19年第11回教育委員会定例会を閉会する。  
どうもお疲れさまであった。

閉会 午後1時53分